

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。※

1. 学校概要

学校名 豊中市立上野小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒560-0013

大阪府豊中市上野東2-8-8

E-mail: t_uenosho@city.toyonaka.osaka.jp

Website: http://www.toyonaka-osa.ed.jp/cms/ueno/

児童生徒数：男子 582 名 女子 514 名 合計 1096 名

児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

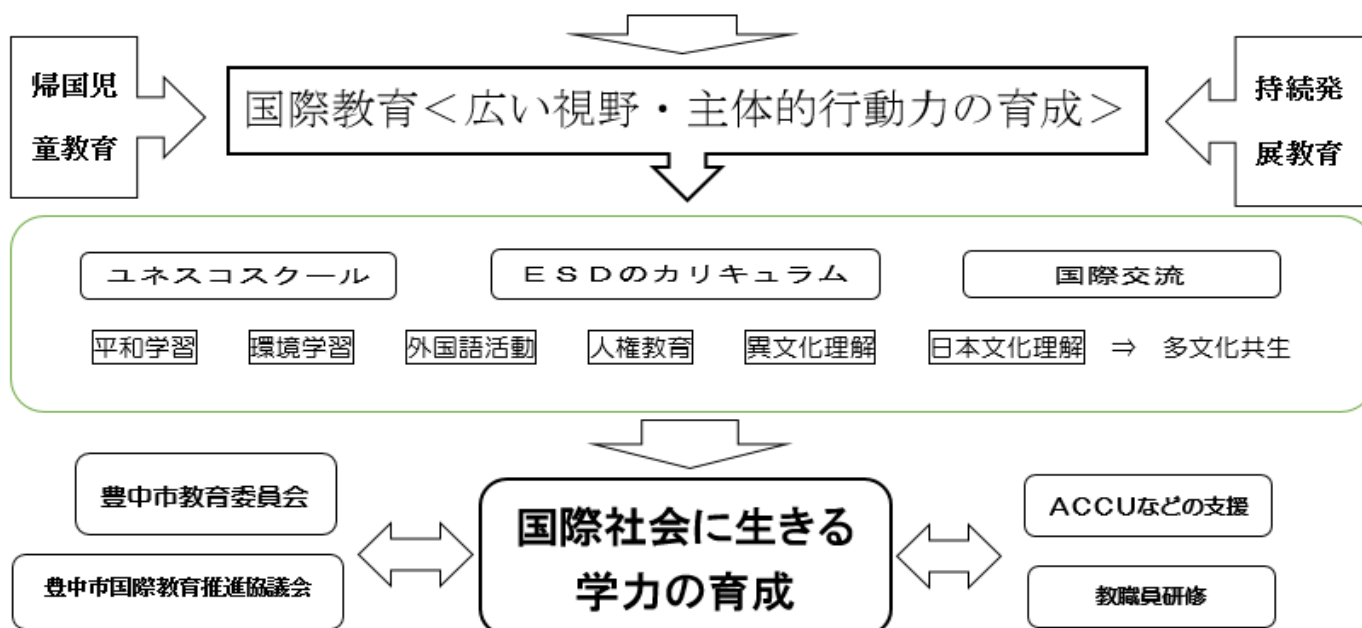
(1) 1年間の主な活動内容

◎研究主題「世界の人と共に歩む子の育成」～いろいろな友だち、世界から世界へ～

上野小学校の国際教育＜2014年度（平成26年度）＞

【地域】戦後開発された町閑静な住宅地。府立高校・私立中等学校・私立幼稚園2校ある文教地区。公民館をはじめ各種団体の活動が盛ん。
【保護者】教育熱心・転勤家族が多い・学校を大切にする・学校教育への関心が高い・PTA活動が盛ん

【児童の実態】とても優しく素直・学力は比較的高い学力に差がある・意欲だが、筋道を立てて自分の考えを説明したり論理的に考えたりする力が弱い。



＜国際教育で育成したい態度や能力＞

- ① 異文化や異文化をもつ人々を受容・共生する能力
- ② 自らの歴史、伝統文化に立脚した自己の確立
- ③ 自らの考えや意見を発信し、具体的に行動する態度・能力

本校は国際教育を軸にして研究を進めている。6年間を通して系統的に自らの歴史・伝統文化を学び、多様な人々と触れ合うことにより異文化や異文化をもつ人々を受容・共生する能力、また各研究推進委員会と連携し全学年で自らの考えや意見を発信し具体的に行動する態度・能力の育成に努めている。

今年度も児童の実態にもとづいて、各学年が教科横断的にESDカリキュラムを改善し、広い視野と主体的な行動力の育成に取り組んだ。ESD（持続可能な開発のための教育）は、現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動である。ますますグローバル化していく未来を生きていく子ども達には、多様な人々を受容・共生する力、課題を解決するために探求する力が必要である。2020年に開催される東京オリンピックで

は、おもてなしをする側として、世界のために、地域のために、思いやりを持って主体的に行動する力が求められる。そうした背景を踏まえ、各推進委員会と連携しながら、学校全体でESDカリキュラムをPDCAサイクルでより良いものへと今後も改善していく必要がある。

また、今年には本校で初めてALT（ザンビア人）を迎えた。1ヶ月間、常に学校にALTが常駐することで、児童がいつでも気軽に楽しくALTと接することができ、英語を身につけようとする意欲が高まるとともに、異文化や異文化をもつ人々を受容・共生する能力の育成に役立った。国内児童間交流としては、6年生が沖縄市立比屋根小学校とWebを活用した平和学習交流を行った。大阪ユネスコスクールネットワークでは「日中 小・中・高ESD学びあい交流会」を開催し、校種や学年、国を超えて互いに学びあい、「若者世代」としての連帯感を深めることができた。児童会では、文房具を集めてカンボジアの学校におくった。パソコンクラブでは今年もユネスコ世界寺子屋運動へ参加した。

◎2014 年度 各学年国際教育年間活動内容

1年	テーマ ねらい 内容	だいすき にほんのおはなし・うた・あそび お話やうた、遊び等、日本に昔から伝わるものを知り、親しむ。 (1) 民話(絵本)を通して、日本に古くから伝わるものについて知る。 (2)七夕かざり・折り紙等日本に古くから伝わる文化について知り、体験しながら 自国文化の理解を深める。
2年	テーマ ねらい 内容	知りたいな 知らせたいな! 世界のこと (1) 日本の神話や伝承話を通して「伝統的な言語文化」に親しむ。 (2) 帰国保護者会の人から、いろいろな国のことを聞く。 「いろいろな国を知ろう」では、帰国保護者会などの聞き取り学習を実施し、調べ学習をする。それをまとめて学年発表会を持つ。(フランス・ジャマイカ・カナダ・中国・イギリス)
3年	テーマ ねらい 内容	やさしい町 上野 ～まちがすき、人がすき～ 日本や世界のユニバーサルデザイン事情について知り、だれにとっても暮らしやすいまちについて考える。 (1) 自分たちの住んでいる所のいいところを探す。 (2) 日本や他国のユニバーサルデザインについて。 帰国保護者会聞き取り学習 (3) 外国語体験
4年	テーマ 内容	広げよう! エコライフ (1) ゴミについて調べよう! (2) 水について調べよう! (3) 身近な環境について考えよう!
5年	テーマ ねらい 内容	生命を支える食 我が国の米作りの様子や米文化に気づくとともに、世界各国にもそれぞれの風土を生かした主食があり、我が国同様そこに住む人々の生活に深く根ざしていることを知る。 (1) 主食である米について知ろう (2) 自分たち食生活を見直そう (3) 世界の国々の料理を調べよう (4) 世界の食糧事情を考えよう
6年	テーマ ねらい 内容	出会い、考え、伝えよう 平和学習を通して、いのちの尊さについて考える。また、様々なひとや資料などとの出会いを通して、自らの生き方をみつめ直す。 (1) 広島へ修学旅行に行くのはなぜ?(事前学習・行ってきます集会など) (2) 修学旅行での学び(資料館・平和公園・語り部さん・折り鶴など) (3) 平和について学んだことを伝えよう。(報告集会・学年発表会) (4) 大阪・豊中・沖縄の戦争について考えよう(GTのお話、沖縄市との交流など) (5) 未来に向かって (GTとの出会い・資料「プロフェッショナル」など)

◎ユネスコスクール / 国内・国際交流事業

本校は2009年6月に豊中市で初めてユネスコスクールに加盟した。ユネスコスクールとは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校のことである。世界の加盟校は180カ国約9566校、日本の加盟校は約705校である。

(2014年4月現在)文部科学省および日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールをESDの推進拠点と位置づけ、加盟校増加に取り組んでいる。2014年は「国連持続可能な発展のための教育(ESD)の10年」の10年目という節目にあたり、岡山では世界大会が開催された。

本校では、広い視野と主体的な行動力を育むため、国内・国際交流事業を通して、ESD(持続可能な開発のための教育)に積極的に取り組んだ。また、帰国児童など異文化を背景にもつ児童、また全ての児童が尊重されるような学校体制を目指した。

(1) ねらい

- ① 広い視野と主体的な行動力を育成するため、日本および世界各地の子ども達と交流し、その国や地域の文化を知るとともに日本文化等を発信する。
- ② ESDなどの学習課題や教科学習を交流先の児童と連携して取り組む。
- ③ 異なる言語・文化環境の人々とコミュニケーションを図ろうとする意欲をもつ。
- ④ 教材や授業方法等を交流することで、本校教育の一層の深化を図る。

(2) 国内・国際交流先

- ① 韓国・巨済市・菊山初等学校(ユネスコスクール加盟校、2010.8.27.フレンドシップ提携校)



- ② アメリカ・サンマテオ市・パークサイド小学校(2012.5.フレンドシップ提携校)
1年生の児童が学んだ日本の伝統行事についてまとめたものを送った。

- ③ 沖縄市立比屋根小学校(豊中市と沖縄市は兄弟都市)
6年生がWebを活用した平和学習交流の取り組みを行った。

- ④ カンボジア・ピートゥヌー小学校
児童会を中心に文房具を集め送付した。現地に学校をつくっているNGOやカンボジアからの留学生の協力によって実現できている。過去2年は東日本大震災・被災地支援へ力を入れていたため中断していたが、今年交流を再開した。

⑤ 大阪 ASPnet (ユネスコ・スクール) ネットワーク

2009 年秋、大阪 ASPnet ネットワークが組織された。(メンバーは大阪 ASPnet ネットワークに賛同する近畿の小・中・高校・大学) 各学校の実践交流をはじめ、大阪独自の取り組みの企画・運営を行なっている。2014 年 12 月 20、21 日に、大阪府立少年自然の家で「日中 小・中・高 ESD 学びあい交流会」を開催し、校種や学年、国を超えて互いに学びあい、共通の未来を担う「若者世代」としての連帯感を深めることができた。

(3) ユネスコスクール世界大会—第 6 回ユネスコスクール全国大会—



2014 年 11 月 8 日 (土) に第 6 回ユネスコスクール全国大会が開催された。本校もポスター展示で参加をした。ポスターには本校の国際教育の概要やワールドミュージアム、各学年の取り組みなどを盛り込んだ。

(4) ユネスコスクール比屋根小学校との w e b 交流

豊中市沖縄市兄弟都市提携 40 周年記念事業に関わり、沖縄市立比屋根小学校 6 年生と本校の 6 年生とで計 3 回の w e b 交流を行った。

①第 1 回目

各校の学校紹介を行った。大阪の魅力や豊中の有名な場所、上野小学校の良いところなどを発表した。沖縄市からも沖縄のエイサーについての紹介や学校の特長・先生の紹介などの発表を行った。お互いに楽しく交流をすることで今後の発表を活発に行うための良い機会となった。

②第 2 回目

本校 6 年生の児童が修学旅行で広島を訪れ、学んだことを発信した。「折鶴」「原爆ドーム」「平和記念公園」「原子爆弾」について、調べ学習をしたり考えを深めたりしたことや今回の学習を通して思ったことや感じたことを発表した。比屋根小学校からは多くの質問が出て、興味を持って話を聞いてくれた。戦争に対して思うこと平和な世界を築くために何をしなければいけないかなど、活発な意見交流をすることができた。

□第 3 回目

比屋根小学校の 6 年生が学んだことを聞いた。沖縄市比屋根小学校は修学旅行でガマへ入る体験をしたり、沖縄戦体験継承者の方からのお話を聞いたりして、平和学習の学びを深めていた。本校児童も熱心に話を聞き、質問もたくさん行い、本校児童の学びにもつながった。

④聞き取り学習

計3回の交流に加えて、能登宏之先生をお招きし、大阪・豊中空襲について聞き取り学習を行った。本や資料で大阪空襲のことは知識として知っていたが、自分たちが住んでいるところも空襲に遭い、大きな被害があったという事実に驚いていた。また、実際の焼夷弾の破片を持つ体験をし、予想以上に重いことも実感を伴って理解することができた。

また、比屋根小学校で行った聞き取り学習をDVDで送っていただき、本校児童も観て学習を行った。当時のガマの雰囲気や中で起こったことなどを体験談や絵本を通じて学んだ。本や資料では紹介されなかったことも継承者の方から話を聞くことができ、その後の平和学習を行う上で子どもたちの学びを深めることができた。

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 (_____)